

幻視力 暗然・不安 イインカイ

ときは7月4日、黒界いやコッカイは「イラク特措法」が衆議院を通過する時でもあり、学生や市民団体が抗議の声をあげていた。与党の数で押し通されることに慣れさせられてしまったのか、心なしかその声は小さかった。たとえ一声でも反対の意思を表そうと思ひ、交渉参加の前に議員会館の前に立った。福島や柏崎など現地の人々の不安を無視して続けられる「維持基準」の導入、大阪の人間にとっては関電の上蓋管台のひび割れ疑惑があり、ほうってはおけない問題であった。以下は「幻視力 暗然・不安 イインカイ」の傾向と対策である。

① 言葉でだます

「原発の設備は建設時においては『耐震設計審査指針』が適用され、使用時においても遵守すべき」だと言いながら、具体的な場面においては、根拠のあやふやな「維持基準」で充分だと言い通す。最近、国会に流行る言い替えの典型である。

② 木を見て森を見ず

「私どもはひび割れ、減肉などそれぞれについて審査しております。地震は担当が違いますから……」本当は、ひび割れだって測定はできないのだけれど、それぞれの問題を検討するだけで、だいじょうぶだという。細部を見て全体は見えないふりをする。ただ住民はそうはいかない。

③ 住民は実験材料

「地震が来ても安全です。研究報告がありますから。」ちょっと待ってよ。「地震荷重を受ける減肉配管の破壊過程解明に関する研

究」は2001年度から2005年度まで実施すると書いてまっせ。そんなら住民は原発による実験につきあわされてるんですか？

④ 不利な情報は隠す

具合の悪いデータは隠す、問題のありそうな所は調べない。なんやら一学期の成績を隠す、ドラ息子のような手口やおまへんか。浜岡3号機では再循環系の超音波探傷によるひび割れ確認14箇所のうち、都合の良いデータだけが報告され、機械による測定よりも実測の方が大きいものは隠されていた。

⑤ 仲間内の検証

「定期事業検査には独立行政法人による審査を行ない、国が評価をする」と答えているけど、「検査はするよ。そやけど検査を検査するのは仲間やからね。心配ないよ」そんな声が聞こえてきそうな構成メンバー。傷を評価する力のある公正な専門家はいるのだろうか。

原子力安全・保安院のあまりの態度に身も凍り、私は大阪から行ったことも忘れて黙ってしまった。石丸さん、武本さん、長野さん、松下さんをはじめ現地の人々、ひび割れ問題にずっと取り組んでいる東井さん、高木さんもたまりかねて保安院を次々に追及した。一時間の予定が3時間近く続いたのは参加者があまりにも真摯だったからである。以上、梅雨空の下、熱くて、寒いお話はおしまい。

議員会館を出ると、一連の有事法制に抗議した座り込みが続いていた…… (京子)